

モザンビーク・ブラジル・日本 3カ国民衆会議 Day2オープンイベント ～危機の21世紀を超えて、つながりあい、食の幸せを未来に手わたすために～

21世紀に生きる私たちは、未来の世代にどのような「食」と「農」を手わたしていけるでしょうか？

いま、世界各地で「食」とそれを支えてきた「家族によるちいさな農業（家族農業）は深刻な危機に直面しています。その背景に、もうけを重視する投資や企業によるグローバル・フードシステム、遺伝子組み換えやゲノム編集などの技術、それらを推進する各国政府の政策、地球温暖化などによる異常気象があります。そして、農地・水・たね（種子）・森へのアクセスや「どこで何をどう育てるのか」の決定権が農家の手から急速に奪われつつあります。

日本に暮らす私たちとも無縁ではありません。官民一体となった日本の大豆生産のための援助や開発計画により、ブラジルやモザンビークで数々の環境被害や土地収奪を引き起こしてきています。

一方で、先住民族や小さな農家は、様々な創意工夫を積み重ねてきました。それは、国境を超えた人びとの連帯を通じて世界に広がり、多くの素晴らしい変化を生み出してきました。来年には、「国連家族農業の10年」が始まります。

農家の苦境は、私たちの選択権と決定権を失うことにもつながっています。これを受けて、私たちは、モザンビークとブラジルから来日する皆さんとともに、「食と農の未来」を描き、課題を整理し、これらを乗り越えるための方策を話し合いたいと思います。

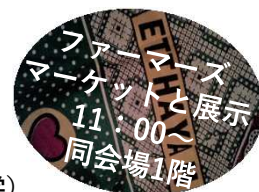
3カ国民衆会議 Day2

国際シンポジウム & マルシェ

2018.11.21(水) 11:00-20:40

会場：聖心女子大学4号館（元JICA地球の広場）3階ブリットホール

定員：300名 ＊お子さまの同伴も可能です。



総司会：西崎伸子（福島大学）

国際シンポジウム（第1部）15:00-17:30

「グローバルな食&農の危機と『食をめぐる主権』
ー『私たちの食とたね』を未来に手わたす」

- オープニング（15:00-15:20）
 - 開催の挨拶・趣旨説明
渡辺直子（日本国際ボランティアセンター）
 - 報告「グローバル・フードシステムと3カ国」
印鑰智哉（日本のたね（種子）を守る会）
- 現状と取り組み（15:20-16:35）
「いま食とたねをめぐる世界で起きていることー『私たちの食とたね』を守るための取り組み」
 - 南米・ブラジルで起きたこと&取り組み
ジルベルト・シュナイダー（ブラジル小農運動MPA）
 - アフリカ・モザンビークで起きていること&取り組み
日本でも起きていること&取り組み
山本奈美（耕し歌ふぁーむ/京都大学大学院）
金子友子（埼玉県小川町 霜里農場）
- ディスカッション（16:35-17:25）
「『私たちの食とたね』を守るために何ができるか？」
ファシリテーター：
印鑰智哉（日本の種子（たね）を守る会）
登壇者：
斎藤博嗣（一反百姓「じねん道」/小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン（SFFNJ））
枝元なほみ（料理研究家）
松平尚也（AMネット/耕し歌ふぁーむ）
イゾレッチ・ウシニエスキー（セラードを守る全国キャンペーン）
- クロージング（17:25-17:30）
小池絢子（WE21ジャパン）

国際シンポジウム（第2部）18:00-20:40

「食・農・くらしと地域の自立へ
ー「犠牲の経済開発モデル」の限界」

- オープニング（18:00-18:25）
 - 開催挨拶 大橋正明（聖心女子大学グローバル共生研究所）
 - 「ミスチカ」（歌と表現）
モザンビーク農民女性
 - 一次産品化する「食」の大量生産と輸出モデルの課題
ジアナ・アギアール（FASE：ブラジル）
- 報告：「犠牲の開発」（18:25-19:10）
世界の南の国々で何が起きているのか？私たちとの関係とは？
 - いまモザンビークで起きていること
プロサバンナにノー！キャンペーン
 - 日本市民社会の取り組み
渡辺直子（日本国際ボランティアセンター）
 - 質疑応答と整理
- 報告：オルタナティブ・食・農・暮らしの自立へ（19:10-20:00）
 - 食と農の分野で進む世界的な変化
（国際家族農業の10年、小農の権利に関する国連宣言など）
ピア・カンベシーナ（ブラジル・モザンビーク・日本の加盟団体）
 - ブラジルでの取り組み（アグロエコロジー、食の主権）
イゾレッチ・ウシニエスキー（セラードを守る全国キャンペーン）
 - モザンビークでの取り組み（抵抗と主権）
 - 日本での取り組み（産直運動/提携、自給圏など）
- ディスカッション（20:00-20:35）
「みなさんの食の幸せのために何ができるのか？」
ファシリテーター：
池上甲一（近畿大学名誉教授）
船田クラーセンさやか（明治学院大学国際平和研究所）
登壇者：
ジルベルト・シュナイダー（ブラジル小農運動、ピアカンベシーナ）
イゾレッチ・ウシニエスキー（セラードを守る全国キャンペーン）
モザンビーク農民運動
天明伸浩（星の谷ファーム）
- クロージング（20:35-20:40）
まともと閉会の挨拶 西崎伸子（福島大学）

休憩&種の交換会17:30-18:00

【参加費】

- ・第1部あるいは2部のみ：各回1000円
- ・第1部・2部通しでの参加：1500円
- ＊同伴のお子さま&学生無料

申込用QRコード



【参加申込】

本フォームよりお申込の上、会場にお越し下さい。
<https://ssl.form-mailer.jp/fms/20c758f6591287>
※キャンセルの場合は事前にご連絡下さい。
※備考欄にお子さまの年齢と人数をお書き下さい。

【お子さま同伴について】

- ・託児はありませんが、会場後方にゴザやマット、簡単なおもちゃを準備しております。
- ・授乳・おむつ交換が可能なスペースがあります。

【お問い合わせ先】 3カ国民衆会議実行委員会事務局 trianglerpc@gmail.com

アクセス

東京メトロ日比谷線広尾駅
4番出口から徒歩1分

〒150-8938
東京都渋谷区広尾4-2-24
聖心グローバルプラザ（4号館）



【主催】3カ国民衆会議実行委員会【共催】聖心女子大学グローバル共生研究所、
グローバルフードシステムを考える市民グループ、モザンビーク開発を考える市民の会

国際シンポジウム登壇者紹介



西崎伸子 (福島大学)
 福島大学行政政策学類 准教授。エチオピアにて野生動物保護をめぐる紛争、地域に根差した保全活動、狩猟活動と野生動物保護の共存に関する研究を行う。また「観光」という視点から、人びとの暮らしだけではなく、地域がおかれた状況を国際社会に発信している。福島の子ども保養プロジェクトにも参画。



山本奈美 (耕し歌ふあーむ/京都大学大学院)
 京都で農場を家族で運営。「里山のめぐみを畑から食卓へ」をコンセプトに、お米やお野菜を「里山のおすそわけ定期便」という名前で販売。友人らと小さなケータリングビジネス（「にじいろごはん」）を運営。京都大学博士課程にて、国内外の「オルタナティブ・フード・ネットワーク」を研究。「考えて発信して作って食べる小さな農家」を目指す。



金子友子 (埼玉県小川町 霜里農場)
 化学肥料・農業等に依存せず、身近な資源(自然エネルギー)を生かし、食物だけでなくエネルギーも自給して自立する農業を目指し、「小利大安(小さい利益でも大きな安心)」をモットーに1971年より埼玉県小川町で有機農業を続けている。



松平尚也 (AMネット/耕し歌ふあーむ)
 1995年にAMネット立ち上げに関わり、現在代表理事。WTO等の会議に参加しグローバルな農の問題に関わりつつ2010年に就農。耕し歌ふあーむを設立。伝統野菜等の宅配事業の傍ら京都大学農学研究科で小規模農業について農家の視点から研究している。



ジルベルト・シュナイダー (ブラジル、小の運動MPA / ピアカンペシーナ)
 2004年からブラジル小農運動(MPA)に参加。現在ディレクター。ピア・カンペシーナの員として、クレオール種(伝統的な固定種)やアグロエコロジーに関する提言を行っている。サンタカタリーナ州の植物燃料協同組合で、組合管理や種に関するテクニカルアドバイザーを務めた。2015年にはFAOのアグロエコロジー国際フォーラムに参画。



ジアナ・アギアール (ブラジル、FASE)
 2014年からリオ連邦大学の都市・地域計画研究科博士課程に在籍。アグリビジネスのための貿易回廊開発の研究を行う。ブラジルNGOの連合組織FASE(社会・教育支援団体連盟)の国際部門アドバイザー。トランスナショナル研究所(TNI、アムステルダム)の研究者、国際ジェンダー貿易ネットワーク(IGTN)のコーディネーター等を務める。



船田クラセンさやか (明治学院大学国際平和研究所)
 明治学院大学国際平和研究所研究員。国際関係学博士。元東京外国語大学大学院教員。現在、自給農を目指しながら、ヨーロッパ・アフリカ・南米の小農や研究者・市民社会をつなぐ活動に従事。主・共著書に『モザンビーク解放闘争史』(御茶の水書房)、『解放と暴力-植民地支配とアフリカの現在』(東京大学出版会)。編著に『アフリカ入門』



小池 絢子 (特定非営利活動法人 WE21 ジャパン 民際協力室)
 2013年よりWE21ジャパンに参加。民際協力事業を主に一部共育事業(啓発活動)、政策提言事業を担当。2013年より「プロサバンナ」に関わる問題へのアドボカシー活動に参加。当問題に対する地域市民への関心を高めることを目指している。



渡辺直子 (国際ボランティアセンター(JVC))
 2005年JVCに、2015年モザンビーク開発を考える市民の会に参加。2013年から日本がモザンビークで行うODA事業「プロサバンナ」に関連して、モザンビーク小農組織との合同調査を開始、現在までに10回の現地調査を行う。アフリカ、モザンビーク、ブラジル、カナダなどの農民や市民社会組織とともに、主に土地収奪等に関連したアドボカシー活動を展開。



伊鑰智哉 (日本のたね(種子)を守る会)
 アジア太平洋資料センター(PARC)、ブラジル社会経済分析研究所(IBASE)、オルター・トレード・ジャパン政策室室長を経て、現在はフリーの立場で世界の食と農の問題を追う。ドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えルーレット』、ドキュメンタリー映画『種子-みんなのもの?』いずれも日本語版企画・監訳。



斎藤博嗣 (一反百姓「じねん道」/小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン(SFFNJ))
 2005年に東京から茨城へ夫婦で移住し、新規就農。2017年、SFFNJ設立に参画し、国連『家族農業の10年(2019~2028年)』を支持するとともに、日本および世界で小規模・家族農業の役割と可能性を再評価し、農業・食料政策の中心に位置づけることを求める活動を進めている。



枝元なほみ (料理研究家)
 料理家・家庭料理を考える仕事。
 <食べる>と<生きる>はくっついている。農業や種子守ることにとも取り組んで、子供たちが飢えない未来のために働きたい。キッチンの窓を開けて社会とつながりたい、と思っている。



イゾレッチ・ウシニエスキー (セラードを守る全国キャンペーン/CPT)
 2005年、ゴイアス州のカトリック土地司牧委員会(CPT)の地域コーディネーターに就任し、2009年にCPTの全国コーディネーターに選出。2015年から2018年にかけて、セラード地域に関する活動の重点化に貢献。現在、「セラードを守る全国キャンペーン」のコーディネーターを兼任。



池上甲一 (近畿大学名誉教授)
 京都大学、近畿大学で教育・研究に従事。農業社会経済学の構築を目指し、農業・食料、水・環境、フェアトレード、大規模農業投資などについて研究しながら、日本、アフリカ、タイの村を歩き回っている。著書に『食の共同体』(編著、ナカニシヤ出版、2008年)、『食と農のいま』(編著、ナカニシヤ出版、2011年)、『農の福祉力』(単著、農山漁村文化協会、2013年)など。現在、国際農村社会学会会長。



大橋正明 (聖心女子大学 教授 / 恵泉女学園大学 名誉教授)
 現、聖心女子大学グローバル共生研究所長として国際開発学、NGO論、南アジア地域研究などの教鞭をとる。シャプランルー=市民による海外協力会のバングラデシュ駐在員と事務局長や赤十字バングラデシュ駐在員として、サイクロン防災・救援、難民支援などに従事した経験をもつ。国際協力NGOセンター(JANIC)、ふるさと回帰支援センター理事。



天明伸浩 (星の谷ファーム)
 1995年、新潟県上越市吉川区に夫婦で1ターン就農。「星の谷ファーム」を立ち上げる。妻と娘3人の家族農場経営水稲(7ha)・ブルーベリー(30a)・採卵養鶏(100羽)・農産加工(瓶詰め)。農民という立場から社会活動に関わり、世界の問題にも目を向けている。アジア農民交流センター世話人、日本国際ボランティアセンター(JVC)理事、上越市農地最適化推進委員。

ファーマーズマーケット
 11:00-@1階入口右

各地からシンポジウムに参加される
 農家さんのオーガニック野菜等を販売します!

エシカル商品販売・写真展
 展示「私たちのたね(種子)と豆」



プロサバンナにノー
 キャンペーン加盟団体
 (モザンビーク小農運
 動「ピア・カンペシー
 ナ」を含む)
 現在ビザ申請中のため詳細は
 後日追加でお知らせいたしま
 す。

マルシェ & 展示 12:30-14:45 @3階